

TOPICS ～in 海外～

発信日付 2020年1月7日

発信名 国際部

内容
照会先 TEL : 011-233-1198

瀋陽駐在員事務所

「三宝楽ビール」中国進出！

「三宝楽ビール」とは「サッポロビール」のことです。「三宝楽」の発音は「サンバオラ」で「サッポロ」に近づけているつもりです。「三宝楽」に特に意味はなく、商品イメージを表す造語です。ちなみに「札幌」は「ジャーホアン」と発音します。

ネット通販では「SAPPORO／三宝楽啤酒（ビール）」として、11月から販売されています（写真）。このビールはベトナムで製造され、日本以外に輸出されており、中国での価格は26.5元（650ml／410円）です。中国で製造している日本メーカーの「アサヒスーパードライ」が7.8元（500ml／121円）、「キリン一番搾り」が7.5元（同116円）、中国メーカー「青島ビール」が4.6元（同71円）ですから超高級ビールと言えるでしょう。



サッポロビールは1980年代に輸入ビールとして中国市場に参入しました。2000年にビール製造販売を手掛ける「三宝楽合資会社」を設立しましたが、2009年に中国市場から撤退しています。しかし、近年の中国ビール市場の成長と海外ビールの参入、日系メーカーの好業績、中国消費者の高級志向、日本旅行ブームと日本ビール人気を背景に中国市場に再チャレンジすることになりました。折しも来年は、札幌瀋陽友好都市締結40周年を迎えます。「三宝楽＝SAPPORO＝札幌」を冠したビールが40周年を盛り上げてくれることを期待しています。

正司 毅

ウラジオストク駐在員事務所

マリインスキーバレエについて

マリインスキーバレエは世界五大バレエ団の一つに数えられており、およそ230年前に創立されたロシア国内で最も格調の高いバレエ団と言われています。マリインスキーバレエの本拠地はロシアのサンクトペテルブルクにありますが、ここウラジオストクでも



見ることもできます。ウラジオストクにあるマリインスキー沿海劇場は、2012年のAPECにあわせて建設されましたが、2016年にマリインスキーバレエの傘下となったことでその名がつけました。本場のマリインスキーバレエが鑑賞できるとあって、地元の人々や観光客が多く訪れます。

日本でバレエ鑑賞となると、一番安い席でもおよそ5千円はしますが、マリインスキー沿海劇場では、公演にもよりますが一番高い席でも3～4千円、一番安い席であれば500円以下でチケットを買うことができます。日本でもバレエ人気は年々高まっているとは言われていますが、個人的には、まだまだ敷居が高いように思います。しかし、ウラジオストクでは、仕事終わりや週末に友達同士や家族連れでバレエ鑑賞に行くことも珍しくなく、市民が普段から芸術に触れることが日常となっていることが見てとれます。

沿海地方を訪れる日本人観光客は今年の半期だけで前年の倍以上となっていますが、わずか2時間程度の距離でトップレベルのバレエを鑑賞できるということもウラジオストクの魅力のひとつではないでしょうか。沿海劇場のバレエ団には現在日本人も10名所属していますので、世界トップレベルの舞台に上がる日本人にもぜひ注目してみてください。

安藤 圭

TOPICS ～in 海外～

発信日付 2020年1月7日

発信名 国際部

内容
照会先 TEL : 011-233-1198

北陸銀行バンコク駐在員事務所

タイ人に大人気！！「冬の北海道ツアー」

2013年、日本を訪れるタイ人観光客のビザが不要となり、今では年間100万人を超すタイ人観光客（2018年、国別6位）が日本を訪れています。日本旅行の中でも大人気なのは、「冬の北海道ツアー」です。そこで今回はタイ人に人気のツアーを紹介します。

①♪登別地獄谷で恋愛映画「フェーンデイ」気分を満喫♪

冬の地獄谷は、2016年に公開されたタイの大ヒット恋愛映画「フェーンデイ」のロケ地として人気の観光地です。登別伊達時代村とセットで、忍者体験をする体験型ツアーも人気の秘密です（3泊5日、14万円）。

②♪層雲峡氷瀑まつりで幻想的な冬を体験♪

熱帯に位置するタイは雪が降ることはなく、冬の北海道は非日常体験ができる憧れの地です。自撮りが大好きなタイ人には、インスタ映えする雪像とのツーショットをSNSに投稿することが流行っています（4泊6日、20万円）。



写真:「フェーンデイ(GDH559 社配信)」
地獄谷のシーンより

道内には、キロロ、白い恋人パーク、小樽運河、円山動物園など人気の観光地はたくさんあり、四季を通じてタイ人を引き付ける魅力があります。今年10月、ノックスクート航空(LCC)が新千歳ーバンコク直行便に参入しましたが、既存のタイ航空、

エアアジアと競合するなか、搭乗率は80%以上とされています。今後タイ人観光客は更に増加する可能性を秘めており、引続き北海道の魅力を発信していきたいと思います。

奥山 桂史